電気化学会誌の 大幅な改革

片山 靖

電気化学協会の創立と同じくして1933（昭和8）年に創刊された「電気化学」誌は、日本の電気化学分野における学理の探求と応用に関する情報発信媒体として発展し、社会に貢献してきた。その後、会誌の名称は1961年に「電気化学および工業物理化学」に変更されたのち、1999年に現在の「Electrochemistry」となった。この間、本会の名称も1996年に電気化学会に変更され、さらに2012年には社団法人から公益社団法人へと移行し現在に至っている。

2012年1月からは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が提供する科学技術情報発信・流通総合システムJ-Stageによる本会誌電子版の公開が開始され、2013年から電子投稿審査システムも導入されるなど、時代の要求に合わせて本会誌は発展・進化を遂げてきた。しかし、それと同時にいくつかの課題も浮き彫りになってきた。近年、電子化が著しい学術誌においてサーキュレーション向上を目的としたオープンアクセス化が推進されているが、オープンアクセス化には高額のコストを支払う必要がある場合が多い。本会誌電子版において投稿論文はオープンアクセスにて公開されているが、他の学術誌に比べると掲載料がかなり安価に設定されていた。これに加えて、電子投稿審査システムを通じて比較的簡単に投稿できるようになったこともあり、電子化以降、国外からの投稿数が急増し、編集委員会による論文審査の負担が著しく増大した。これを受けて、2017年より掲載料の見直しを行った。本会会員についてはほぼ従来通りの金額とし、会員外については他の学術誌のオープンアクセス料金に近い金額に改訂することで、会員のメリットを保ちつつ、論文審査の負担軽減を図ることとした。

本会誌は特集や測定法などの会員向け記事と投稿論文をまとめて掲載し、それらの巻・号・ページなどの書誌情報が決定したのちに発行日に合わせて電子版を公開するため、審査と著者校正を終えた投稿論文の公開に時間を要していた。近年では書誌情報が決定していなくても、Digital Object Identifier (DOI)を用いることで投稿論文をいち早く公開することが一般的になっている。そこで、2018年より本会誌を投稿論文のみを掲載する電子版のオープンアクセス誌「Electrochemistry」と、会員向けの情報誌「電気化学」に分冊化することとした。

新しい「Electrochemistry」誌は年間6号を発行する計画である。電子版の特徴を最大限活かして、審査と著者校正を終えた投稿論文を早期公開し、各号毎に書誌情報を確定させる。また、6号のうち第2号（3月発行予定）と第5号（9月発行予定）を論文特集号とする。さらに、全ての投稿論文には著者情報の管理・広報に有用なOpen Research and Contributor Identifier (ORCID)を登録できるようにして利便性の向上を図る。

一方、新たな「電気化学」誌は、3, 6, 9, 12月にフルカラーの冊子体および電子版の季刊誌として発行する計画である（学生会員については従来通り電子版のみ）。これまでの特集、測定法、読み物などを中心として、本会会員に有益な情報を提供していく予定である。なお、季刊誌化によって提供頻度が少なくなる会告やお知らせについては、本会ウェブサイトやメールニュースを通じて提供していく。

これらの改革に加えて、本会誌に掲載された有益な情報を広く提供するために、これまで本会会員のみが閲覧できた特集、測定法などの記事を、掲載から3年が経過した段階で、オープンアクセス化することとした。これによって、本会会員のみならず、より多くの方に質の高い情報を提供し、電気化学分野の普及・発展につなげていく。

新しく生まれ変わる電子ジャーナル「Electrochemistry」誌に加え、本会創立時と同じ名前を引き継ぐ新たな「電気化学(Denki Kagaku)」誌にご期待頂きたい。

Yasushi KATAYAMA
本会平成28, 29年度
編集理事
慶應義塾大学理工学部
教授